



安心・安全な街づくりを目指して 防犯カメラ点検活動

おゆみ野地区町内自治会連絡協議会では、月に1回『青色防犯パトロールカー』を使用して防犯カメラの点検整備を行っています。これは、千葉南警察署・千葉南警察署防犯協会・おゆみ野青色防犯パトロール隊のご協力によるもので、役員も青色防犯パトロール隊員となり、通常のパトロール活動とは別に「おゆみ野四季の道遊歩道」内に6台あります防犯カメラの点検整備に特化した活動を行っています。

点検整備に従事する担当者は3名おり、録画状態の確認や外装が破損していないかなどを確認します。

防犯カメラの管理や運用に際しては管理規程を定め、録画映像および個人情報の取り扱い方を明確にしています。

また、防犯カメラの適正な管理・運用を通じて犯罪の抑止や子どもたちの見守りに繋げ、地域住民の皆さまに安心して頂けるよう努めています。

今後ともご支援とご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。



おゆみ野避難所運営委員会連絡会

私たちのおゆみ野では、泉谷小中学校・有吉小学校・有吉中学校・扇田小学校・小谷小学校・金沢小学校・おゆみ野南小学校・おゆみ野南中学校・おゆみ野公民館・鎌取コミュニティセンターの10カ所が指定避難所となっております。

これらの避難所は、震度6弱以上の地震が発生したときに開設されます。

それぞれの避難所には「避難所運営委員会」が組織され、“いざ”という時に備えて平常時から準備をしております。また、各避難所運営委員会の連携をとるために、一昨年「避難所運営委員会連絡会」を発足いたしました。各避難所の委員長や市の職員を交えて会議を行い、出された意見を参考に改善を図り、内容によっては行政に要望を上げて問題解決につなげております。

この連絡会の具体的な目的は、

- ① 他の避難所の訓練や会議の内容を共有することにより、担当の避難所の改善を図る。
- ② おゆみ野全体の避難所の連携を図ることにより、発災時に総合力を生かした対応が出来るようにする

災害時の避難所運営は、地域の皆さんをはじめ避難者の協力が不可欠です。日頃から一人でも多くの方に関心を持っていただきたいと思います。各避難所や運営委員会の活動の見学は、学校または自治会等の役員にお尋ねください。

おゆみ野地区避難所運営委員会連絡会 幹事 山本 一男

ご挨拶

日頃より、おゆみ野地区町内自治会連絡協議会へのご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨今、「とくりゅう詐欺」や「自転車・自動車盗難事件」等、複雑化する犯罪。SNSの問題。地域によっては、高齢化問題。私たちをとり巻く環境は年々変化しております。

今後もスローガンである「皆の町は皆で守る」を実践し、役員一同が一丸となって取り組みたいと考えております。皆さまのご支援とご協力を引き続き賜りますようよろしくお願い申し上げます。

おゆみ野地区町内自治会連絡協議会 会長 篠原 重樹



泉谷地区 おゆみ野泉谷自治会 防犯パトロール隊の紹介

おゆみ野泉谷自治会では、2013年4月より防犯パトロール隊を組織し、下記を目的として月2回町内の防犯パトロールを実施しています。

- 1, 自主防犯強化（地域の安心・安全）
- 2, 町内美化運動（ゴミ拾い、空き缶・ペットボトル回収）
- 3, 独居高齢者等の見守りや声かけ（希望者限定）

【実施日程】

毎月第一・第三金曜日 所要時間 30分～40分

（4月～9月：18時スタート／10月～3月：17時スタート）

パトロール隊員は、自治会運営委員（17名）を2班に分けて、各班月1回のパトロールとしています。参加は強制でなく自主参加の形をとっています。また、自治会運営委員以外の会員にも自主的に参加いただいています。

防犯パトロールに必要な物品（ベスト・帽子・点滅灯）については、千葉市防犯パトロール隊支援物品配付申請を3年に1度行い配布を受けています。

おゆみ野泉谷自治会 会長 宮沢 敏夫



おゆみ野南地区 イーオおゆみ野自治会 防災訓練の報告



安心してください、我が家は全員無事ですよ！

～「無事ですタオル」を用いた安否確認訓練を振り返って～

先ほど大きな地震が発生しました。安否確認します。

郵便受けに「無事ですタオル」を掲示してください。

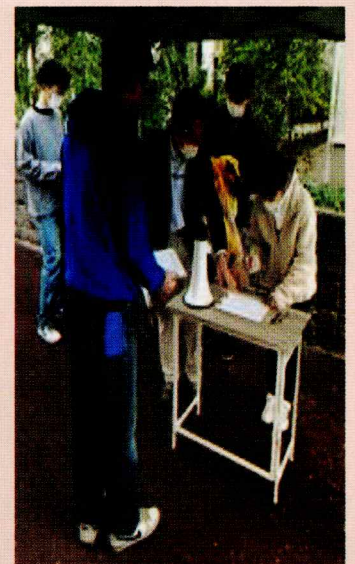
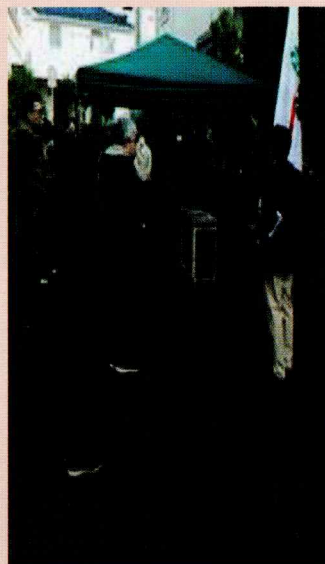
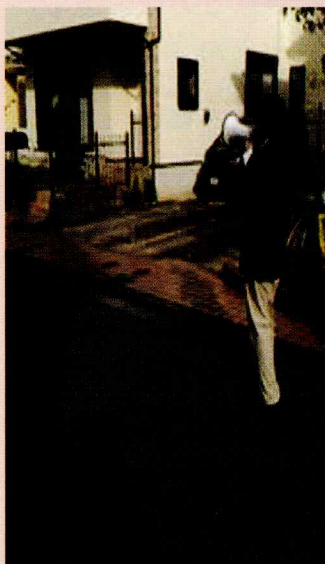
訓練当日の朝、町内に会長の呼びかけが響き渡ります。

私たちの自治会では、11月9日に110世帯が参加して、**安否確認を目的とした防災訓練**を行いました。初めての取り組みでしたが、多くの方に災害発生時には、「**タオル**」を掲示することで、**ご家族の無事を知らせる認識を持っていただける機会となった**と同時に、「タオル」がかけられていない世帯に対しては個別確認することで、安否確認に要する時間を大幅に短縮することができたなど、防災訓練を通して多くの気づきを得ることができました。さらには、参加された方から多くの貴重な意見も寄せられました。“「タオル」が落ち、どの世帯のものか迷った。「タオル」に番地を記載してはどうか”“来年度も防災訓練は継続してやろう”等々。

これら意見は1つずつ丁寧に検討され、私たちの自治会では、「**タオル**」に**番地記載**することを決めました。

災害は社会の弱いところを襲うという言葉があります。**人と人のつながりを持つ、互いの顔の見える自治会における取り組みこそが、災害時の被害を小さなものに抑え、また復旧する際には力強い支えとなる**であろうと信じています。今後も自分たちの町を守る防災意識を継続して高めていけるよう引き続き取り組んでいきたいと思えます。

イーオおゆみ野自治会 白鳥 誠



有吉地区 おゆみ野中央自治会 自治会におけるSNSの活用実験

いちのいち
自治会町内会のSNS

総務省と千葉市の実証実験として自治会DX支援サービス「いちのいち」をおゆみ野地区連協の代表として参加し、約2年間使用してみましたので、その内容をお伝えしたいと思います。

自治会DX支援サービス「いちのいち」は、自治会SNSとして開発されているアプリケーションで、スマートフォンとパソコンで利用することができます。自治会内だけで使うツールとしてではなく、行政と自治会と住民をつなぐ機能を持つことで、自治会DXをサポートするサービスになります。

主な機能と当自治会の利用



「投稿」：① 電子回覧板、募集機能、地域情報発信、住民からの情報発信

② 「いいね」と「コメント」などの機能があり自治会SNSとして活用

「メリット」 通常2週間程度かかる回覧を即日届けることができる

「デメリット」 電子回覧板としてすべての回覧板を都度PDF化する必要があり若干の負担があった

① コミュニティ: 閲覧数を稼ぐために回覧板以外に地域情報を投稿し始めたところ、登録者数と閲覧数が伸びた。読み手に密接な情報ほど閲覧されることが確認できた。

② グループ: (自治会内の委員会・趣味のサークル等) を作ってグループ内での投稿閲覧が可能。防災訓練を行うにあたり訓練担当役員間でコミュニティページを立ち上げました。メールでの連絡と違って情報が一か所にまとまるため、効果はあったと思います。

「災害ページ」: 災害が起きたときに起動させ、無事ですタオルの代わりに安否確認ができます。訓練時に事前予告なしに災害ページを立ち上げました。

「行政からのお知らせ」: 行政から回覧板などが送られてきます。良く読まれているかなどの統計を取ることも可能になります。

課題

① 登録者を全世帯に協力してもらう必要がある。

② 使用料が高い。

